JMSCA 登山月報 第599号 平成31年２月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）

登山月報

カンチェンジュンガ北面

2018シーズンＪＭＳＣＡ 表彰式 …… 2
2019年新春懇談会 …… 3
2019年新春顧問参与会報告 …… 3
第９回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 報告 … 4
第68回日本スポーツ賞 …… 5
第123回 Mountain World …… 6
新連載『日山協と私』 …… 7
ＩＣＭ2018（International Climbers Meet）報告 …… 8
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記 …… 12

No.599

2018シーズンJMSCA 表彰式

恒例の新春懇談会に先立ち、「2018シーズンＪＭＳＣＡ表彰式」が１月12日（土）に東京・アルカディア市ヶ谷で開催された。

表彰式は、「山岳部門」と「スポーツクライミング部門」の２部制で行われ、「山岳部門」では、先ず、第８回日本山岳グランプリの表彰が行われた。グランプリは、馬目弘仁氏（49）＝松本市在住＝に贈賞された。

馬目氏は、日本を代表するアルパインクライマーで、独自のスタイルで日本の冬壁の可能性を追求して“Japanese Style”を提唱。国内で数多くの新ルート開拓や初登攀記録を残し、海外ではバギラティⅡ峰南西ピラー（94年）、メルー・シャークスフィン（96年）、テンカンポチェ峰北東壁（08年）、キャシャール南ピラー（12年）などの記録を残す。07年冬に英国ＢＭＣの国際ウィンター・クライマー・ミートに参加した後、その思想を日本でも実践しようと、ウインター・クライマーズ・ミーティング（ＷＣＭ）を開催。全国から集まった若手の現役らと一緒に手つかずの冬壁を登り、技術の研鑽や交流を図った。その結果、多くの日本人クライマーが、海外の山々で輝かしい結果を残すようになった。これら長年に亘って後進を牽引してこられた多大な功績に対してグランプリが贈られた。

続いてＪＭＳＣＡや各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が行われた。受賞者は、大滝潤二（山形）、中庭稔（茨城）、喜内敏夫（栃木）、角田二三男（群馬・欠席）、傘木靖（長野）、中村久住（大阪・欠席）、京オ昭（広島）、下田泰義（長崎・欠席）、古里亜夫（宮崎・欠席）の各氏。

表彰の後、受賞者を代表して馬目氏と京オ氏が謝辞を述べられた。馬目氏は「ＷＣＭは、まず友達になって、ロープを結びあってお互いにわかり合えるようになるのが目的で始めた。私は立ち上げに携わったが、参加者全員で運営してきた。」と話された。

受賞の喜びを語る馬目氏

結びに八木原会長が2018年シーズンのアルパインクライミングの総括を述べられた。

「スポーツクライミング」部門では、トップクライマーとして圧倒的な存在感を放ち、第18回アジア競技大会（バレンバン）のコンバインドで優勝した野口啓代、ＩＦＳＣ世界選手権（インスブルック）のボルダリングで初優勝を飾った原田海、第３回ユースオリンピック（ブエノスアイレス）のコンバインドで優勝した土肥圭太、ＩＦＳＣ世界ユース（モスクワ）のユースＢでリードとボルダリングの２冠に輝いた谷井菜月の４選手が表彰された。

表彰後、土肥、谷井両選手から受賞の喜びと2019年シーズンの抱負を語っていただいた。当日、遠征などで野口、原田両選手は欠席され、ビデオメッセージで受賞の喜びを寄せた。

結びに尾形専務理事がメダルラッシュに輝いた2018年シーズンのスポーツクライミングの総括を述べた。

特別功労表彰の方々

土肥圭太(右) と谷井菜月(左) 選手

2019年新春懇談会

表彰式に引き続き同会場で、新春懇談会が開催された。当日は駐日ネパール特命全権大使の代理としてクリシュナ・チャンドラ・アリヤル公使参事官をはじめ国立登山研修所・宮﨑豊所長、加須市・角田守良副市長、日本ネパール協会・小嶋光昭会長、日本勤労者山岳連盟・浦添嘉徳理事長、日本山岳ガイド協会・今井通子副会長、日本ヒマラヤ協会・山森欣一会長、日本山岳文化学会・酒井國光会長、日本ワールドゲームズ協会・渡邉一利副会長、日本オリエンテーリング協会・山西哲郎会長など大勢のご来賓、招待者を迎えて、190名の参会者となった。

はじめに髙橋副会長が開会を宣言し、八木原会長が主催者を代表して挨拶を行った。

「組織体制の改編、諸規程の整備等を行い、体制強化を図りながら、東京2020オリンピックの成功に向けて邁進しております。また、山での遭難事故は、後を絶ちません。登山という素晴らしい行為を遭難の２文字で曇らせることのないよう安全登山の施策を立て、効率よく推進して登山文化の振興にも尽力していきたい。」と力強く挨拶された。

続いてご来賓を代表してクリシュナ公使参事官、宮﨑所長からご挨拶を頂戴した。

其の後、乾杯を行い祝宴に入った。乾杯は、坂口三郎、城隆嗣、田中文男、本木總子、神﨑忠男各顧問によって行われ、代表して神﨑顧問のご発声で祝杯を上げた。

北は北海道から南は沖縄まで世代を超えた方々が一堂に参集され、あちらこちらで懐かしい想い出話に花が咲いていた。

会場には、スポーツクライミング日本代表選手も出席され、出席者から激励を受けていた。

名残尽きない楽しいご歓談の後、亀山副会長が中締めを行い、最後に伊藤副会長より閉会宣言があり、お開きとなった。　（記　尾形好雄）

乾杯する顧問の方々

挨拶するアリヤル公使参事官

2019年新春顧問参与会報告

2019年新春懇談会に合わせて１月12日（土）10時より東京・アルカディア市ヶ谷で顧問・参与会が開催された。

顧問は坂口三郎、城隆嗣、田中文男、神﨑忠男氏の４名。ＪＭＳＣＡからは八木原会長、亀山・髙橋・伊藤副会長、尾形専務理事、小野寺、相良・水島・町田・蛭田常務理事、吉田・木村理事、内藤監事ら12名の役員が出席し、参与は全国から18名が参加された。

会議に先立ち、この１年間にご逝去された参与４名の御遺徳を偲び黙祷を奉げた。

八木原会長挨拶の後、小野寺事務局長より、日山協の現況報告として資料に基づき平成30年度上期の組織・役員体制、財政状況、事業概況、山岳共済会などの現況を報告した。

参与からは以下のようなご意見を頂いた。

ＪＭＳＣＡメンバーについて聞きたい、正会員や賛助会員以外に日山協に帰属しない会員を作るのは如何なものか、各岳連には個人会員制度もあり、困惑するのではないか。那須の高校生の雪崩事故の以来、高校生の冬山登山の禁止通達が上部団体から来ていると思うが、全くその通りにするということは危険察知能力を育むことにはならない。多くは通達通り冬山には高校生を連れて行っていない県が多く、必要性を考えて連れて行っている県は少ない、特に１年の半分が雪のある県などは山に行けなくなる。もっと必要性を訴えるべきではないか。夏山リーダー制度のことが話題になっている。非常識な遭難も多く、指導者制度をもっと活用すべきではないか、などのご意見をいただいた。　（記　小野寺斉）

第９回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 報告

第９回全国高等学校スポーツクライミング選手権大会が12月22日（土）～23日（日）の２日間にかけて埼玉県加須市民体育館で開催された。2010年の開始当初より全国47都道府県出場を目標の一つとして行われてきたこの大会も、今年度の参加状況は全国43都道府県・参加校数139校・男子110名、女子101名（全出場211名）・団体参加校 男子28校、女子19校と、全国の高等学校の協力により目標へと近づきつつある。大会の演出も2016年の第６回からプロのＭＣやＤＪが盛り上げ、YouTubeによる動画の配信、今年度は動画の配信時の「３Ｄオンラインオブザベーション」を取り入れて、様変わりしてきている。例年ほどの寒さを感じない体育館内はボルダリングの体験ブースや、クライミングメーカーのアウトレット販売ブースもあり、一般の観客の皆さまも例年より多く見受けられた。

開会式では、本協会の八木原圜明会長より「現在世界で活躍する日本人選手の殆どが、この高校選抜の大会、この加須の壁で競い合っている。皆さんもオリンピックへ出場する可能性がある。ぜひ頑張って欲しい」と力強い挨拶があり、大橋良一加須市長からは「オリンピックへとつながるような力強い登りを見せて欲しい」と暖かなおもてなしの気持ちの込もった挨拶があった。

【ルートグレード】

予選：２ルートのフラッシュ

男子：5.13ｂ．5.13ａｂ　女子：5.12ｃ．5.12ｄ

準決勝：オンサイト

男子(27名)：5.13ｂｃ　女子(26名)：5.12ｄ／13ａ

決勝：オンサイト

男子(８名) 5.13ｃ　女子(８名) 5.13ａ

Route setter：木村伸介、松島暁人、濱田健介、浅田史樹、渡辺海人

【総評】

男女ともに選手の平均的レベルは確実に上がってきており、準決勝、決勝では素晴らしい登りを見ることが出来た。決勝のセットは男女ともに比較的クラッシックなセットだが、集中力を要求されるセットとなり、しっかり「登らせて順位をつける」ルートとなった。

女子は実力が伯仲する中で、完登者が３名となり準決勝のカウントバックで、菊地咲希選手（東京都・世田谷総合）が制し、男子は西田秀聖選手（奈良県・天理）がただ一人の完登で制した。白熱した決勝、準決勝であった反面、予選では登りに集中する余りか、フォールの際にロープに足を絡ませる、クリップをしないままホールドに飛びついてフォールする等危険を伴う落ち方になった事例。デマケーションを伴う違反で、アテンプトの中止を余儀なくした事例も多く見られた。落ち方については、安全に足から着地する技術は練習の中から得られる技術ともいえる。競技ルールをしっかり勉強し安全な技術を練習する。そんな目線で今後も指導をお願いしたく思う。

来年のこの大会は第10回の節目を迎え、開催地である加須市も合併10周年を迎えるメモリアルな大会となることと思う。スポーツクライミングの環境は目まぐるしく変わる。我々運営サイドも引き続き全都道府県の出場を目指すだけではなく、選手たちの熱いクライミングを受け止められるような、次の５年を見据えた明確な目標と方向性を示さなければいけないだろう。

最後となりましたが、この大会に関わった多くの皆さま、加須市の皆さま、そして選手の皆さんに厚くお礼申し上げます。来年また皆さんの出場をお待ちします。

（競技委員　横内鉄郎）

大会成績

順位	個人男子	順位	個人女子
1	西田　秀聖（天理・奈良県）	1	菊地　咲希（世田谷総合・東京）
2	井上　　遼（新田・愛媛県）	2	阿部　桃子（相模女子大学・神奈川）
3	大政　　涼（東温・愛媛県）	3	樋口　結花（多久・佐賀）
4	百合草碧皇（専修大付属・東京）	4	栗田　湖有（東京学館新潟・新潟）
5	山口　龍磨（砂川・東京）	5	小島　果琳（岐阜聖徳学園・岐阜）
6	川畑イサム（鶴丸・鹿児島）	6	瀧川　萌美（京華商業・東京）
7	中島　大智（盛岡南・岩手）	7	黒岡　水夢（藤井寺・大阪）
8	三根生慶太（同志社香里・大阪）	8	二宮　　凜（千葉商科大学付属・千葉）
順位	**団体男子**	**順位**	**団体女子**
1	愛媛県 東温	1	佐賀県 多久
2	千葉県 幕張総合	2	千葉県 幕張総合
3	岐阜県 岐阜聖徳学園	3	大阪府 常翔啓光学園
4	佐賀県 多久	4	山口県 防府
5	岩手県 盛岡南	5	兵庫県 市立科学技術
6	鳥取県 鳥取中央育英	6	長崎県 大村

第68回日本スポーツ賞

「日本スポーツ賞」は、昭和26（1951）年に読売新聞社が制定。毎年、スポーツ競技団体から推薦された優秀選手又は選考委員会の選考で、日本スポーツ界の最高の選手またはチームを選び、「日本スポーツ賞」が贈られる。第68回の表彰式が、１月11日（金）に都内のホテルで開催された。本協会推薦の最優秀賞は、ＩＦＳＣ世界選手権（インスブルック）のボルダリングで初優勝した原田海選手に贈られた。

第32回リードジャパンカップ

期　日　2019年３月２日（土）～３日（日）
会　場　印西市・松山下公園総合体育館
交　通　ＪＲ成田線木下駅より「ふれあいバス」９分
北総線千葉ニュータウン中央駅北口より
「ふれあいバス」12分
入場料　前売券：大人１,000円、高校生以下500円
（３日のみ）当日券：大人１,200円、高校生以下600円
※２日は無料。各種プレイガイドで発売中
大会サイト：http//:www.jma-climbing.org/

第7回リードユース日本選手権印西大会

期　日　2019年３月23日（土）～25日（月）
会　場　印西市・松山下公園総合体育館
（アクセスは同上参照）
入場料　無　料
大会サイト：http://www.jma-climbing.org/

60周年募金協力者ご芳名

（１月31日現在、敬称略）

６口：松本睦男、２口：水島彰治
（総額：298口・１,490,000円）

第123回 Mountain World

冬季8000m峰登山　随所で苦戦中

池田常道

ヒマラヤ、カラコルムの冬に４つの登山隊が挑んでいる。例年、１月は悪天候が続いてコンディションが悪いが、今季も大量の降雪が各隊を悩ませている。

最も注目されるＫ２（8611ｍ）には、ワシリー・ピフツォフ隊長のロシア＝カザフ＝キルギスの旧ソ連三カ国合同隊が南東稜、アレハンドロ（アレックス）・チコン隊長（37）のスペイン＝ポーランド＝ネパール（シェルパ）隊が北東稜を目ざしていた。ところが、前者は資金不足でクラウド・ファンディングを試みていた複数の隊員が結局離脱し、大幅な戦力ダウンとなった。チコン隊も、予定していた東面の可能性が低いと分かり、南東稜に変更した。

両者は合流して行動することになり、南東稜Ｃ２（6700ｍ）へ向けてルート工作を開始、旧ソ連三カ国合同隊は6800ｍに達した。一方、チコン隊のヴァルデマール・コヴァレフスキ（45、ポーランド）は落氷に打たれてＣ１（6100ｍ）から引き返し、同じくポーランドのマレク・クロノフスキも心臓に異状を訴えて、両者とも１月29日にＢＣからヘリでスカルドへ向かった。ピフツォフ隊の情報によれば、チコン隊の強力なシェルパチームは、彼らの固定ロープに平行して自分たちのロープを張っているという。両者は合流しても合同しないということなのか？

ナンガパルバット（8126ｍ）にはイタリアのダニエーレ・ナルディと英国のトム・バラードが西壁に挑んでいる。ルートは壁の右寄りに位置するママリー・リブで、ナルディは2013年にフランス女性エリザベート・ルヴォルと挑んで6400ｍまで達したことがある。彼は翌年も挑戦したが、雪崩にテントを流されて敗退した。ナルディとチコンはパキスタンのムハンマド・アリ・サドパラと３人で西壁通常ルートを攻め、7850ｍまで迫ったものの、サドパラが肺水腫を発症したため断念した。

ママリー・リブは100年以上前の1895年にアルバート・ママリー（英）がグルカ兵をつれて試みたルートでナルディは今回、英国のトム・バラードをパートナーに誘った。バラードは1995年にＫ２で亡くなったアリソン・ハーグリーヴズの長男で、バラードは父方の姓である。母は、1993年夏にアルプス６大北壁を単独登攀して世に知られたが、トムは2015年冬に冬季初の６大北壁単独登攀を完成した。母の場合アイガーが北東壁だったり、グランド・ジョラスがランスールだったりしたが、トムはジョラスのマッキンタイア＝コルトンのバリエーションを除いて、レビュファの原著『星と嵐』に記されたルートで完登した。

二人に加えてパキスタンのカリムとのトリオは、出だしから深い雪に難渋した。埋められたテントを掘り出すのに多大なエネルギーを費やし、雪崩の脅威に行動を制限されながらもＣ３地点まで進んでいる。

2000年代冬季8000ｍ峰のエースとしてシシャパンマ（8027ｍ）、マカルー（8485ｍ）、ガッシャブルムⅡ峰（8034ｍ）、ナンガパルバットの４座を手中にしてきたシモーネ・モーロ（イタリア）は、南チロルの女性タマラ・ルンガーとマナスル（8163ｍ）に挑んできたが、今回はペンバ・ギャルジェ・シェルパと組んで挑んだ。

６ｍにも及ぶ新雪が降り積もり、強風が行動を妨げるという悪条件に抗して粘ってきたが、ＢＣが埋められ、残る物資も乏しくなった２月初め、ヘリにピックアップされて脱出した。

モーロによれば、1984年１月12日に行なわれたポーランド隊（マチェイ・ベルベカとリシャルド・ガエフスキ）の登頂は、前年12月２日にＢＣを建設したもので、「冬至から春分」という現在の冬季登山概念から外れているのだという。そういった意味では、1985年12月10日にＢＣを設けて、翌年１月11日に登頂した、ポーランド隊のカンチェンジュンガ（8586ｍ）冬季初登頂も論議の対象になるだろう。

マナスルの斜面を覆う大雪崩。シモーネ・モーロ撮影

新連載 ～創立60周年に向けて～ (9)

『日山協と私』

福島県山岳連盟　尾形　一幸

すべての峰に憩あり

ゲーテの詩集「旅人の夜の歌」に次のような一節がある。

> **すべての峰に憩あり**
> **梢をわたるそよ風の跡も見えず**
> **小鳥は森に憩しぬ**
> **待てしばし**
> **汝もまた憩わん**

福島県山岳連盟の創立50周年及び60周年記念誌のタイトルは、まさにこの一節を借用している。この10年で様々な出来事が起こった。東日本大震災そして原発事故は私達の自然や環境に対する考え方や生き方を根本から覆すことになり、復興・復旧は道半ばである。また東北の厳しい風土は、自然に対する畏敬の念を駆り立て様々な自然信仰と歳時記の世界を醸し出してきました。特に山岳信仰は東北特有の険しい東北脊梁山脈と火山に囲まれて独特の地域文化を育んできました。振り返ってみると、福島県山岳連盟は、昭和24年６月５日に日本山岳会福島支部長・伊藤弥十郎氏らが中心となり設立され、平成31年は創立70周年の記念すべき年に当たる。

日本山岳・スポーツクライミング協会も2020年に創立60周年の節目の年となる。

私も山歩きをはじめて60年を数える。名峰へのチャレンジの他に私の山歩きの目的は、先人が歩いた軌跡をたどる旅である。旅に生き旅に倒れた古の歌人達。西行、宗祇、芭蕉そして現代では山頭火や民俗学者の宮本常一に倣って全国を歩きついでに名だたる山へ登ってきた。旅の目的は、人それぞれ違い自分のルーツを探ったり、歌枕を求めたり人や生業そして風光との出会いなどがあげられる。

私の究極の夢は700万年前に私達の祖先が成し遂げた人類発祥の地アフリカからアリューシャンを越え北アメリカそして南アメリカ突端までの５万３千キロの人類移動拡散の旅いわゆるグレート・ジャーニーである。しかし本来の夢は歳と共に儚くも消え去り今は、その足跡を辿る遺跡めぐりに終始している。ところがしっかりとこの夢を叶えた人がいたのである。探検家の関野吉晴氏が1993年に南米ナバリーノ島から逆コースでグレート・ジャーニーを始め、2002年にタンザニアまで実に10年の歳月をかけて走破した訪問国35か国の旅行記録を読んで感動した。日本人のルーツも興味がある所だがネアンデルタール人やクロマニヨン人そしてモンゴロイド・アルタイ民族など民族形成の道への興味も尽きません。

また日本の縄文文化が１万５千年も前から続いた広がりと繋がりは、遠くはシベリア少数民族や南太平洋、北米・南米のインディオにまで及び、モンゴロイド特有の肌の色・黒毛・蒙古斑そして縄文式土器などにも表れている。様々な気候変動や火山そして地殻変動を乗り越えて人類は知恵を獲得し地球上に拡散していった。仏教伝来の道やシルクロード交易の道も興味が尽きない所だ。宮本常一氏は山に登り地域を俯瞰して初めて地域が理解できると説いている。私たちの体に流れているモンゴロイドの血は何事にも代えがたい宝である。今後ともしっかりと歩き出会いを楽しみ山を極めたいものである。

武田久吉先生と二階堂哲三・伊藤弥十郎(吾妻、昭和45)

磐梯山頂上直下(平成23年)

ＩＣＭ2018（International Climbers Meet）報告

参　加　者　石川貴大（29歳）
所属クラブ　静岡エクスペディションクラブ、
浜松勤労者山岳会
期　　間　10月７日～ 10月14日
※ヨセミテ滞在は10月４日～ 10月17日
開　催　地　Yosemite National Park
Yellow Pine Campground

今回、日本山岳・スポーツクライミング協会にて募集のあった、American Alpine Club（以下ＡＡＣ）主催のInternational Climbers Meet（以下ＩＣＭ）に参加した。各日の詳細は下記にそれぞれ記載する為、ここでは大枠の報告を行う。ＩＣＭは、私にとって初めての海外クライミングである。参加が決まった時は、憧れの地でクライミングができることに胸が弾んだ。ＩＣＭへの参加は、今年の夏にエルブルース登山に一緒に行った隊員の方からの紹介で決まった。エルブルースに行かなければ、きっと今でもＩＣＭの存在は知らなかったと思う。前職を退職したこのタイミングで、エルブルースに続きこんなに良い機会に恵まれたことは本当に幸運だと感じる。

正直なところ、ヨセミテについて以前から詳しく知っていたというわけではない。ただ漠然と巨大な岩があるというイメージがあっただけである。自身の登攀グレードもそれほど高いわけではなかったが、ただヨセミテにはいつか行きたいとずっと思っていた。実際にヨセミテに到着すると言葉ではうまく伝えきれないほどの景色が広がっていた。谷の両サイドに広がる岩壁は想像を超えた大きさで、ただただ圧倒された。ここをこれから登るのかと思うと興奮が抑えられなかった。

今回のヨセミテは、ＩＣＭの日程を挟む形で少し長めに滞在日程を取っていた。この報告では、ＩＣＭの期間に関してのみ触れていきたいと思う。ＩＣＭは、世界各国から50名近いクライマーが集まっていた。そのほとんどは、アメリカもしくはヨーロッパからの参加であった。アジア人は私一人である。年齢層は幅広く10代から60代までの参加者がいた。レベルもクライミングを始めたばかりの人もいれば、ビッグウォールまで一通り経験している人もいた。様々な経験を持ったクライマーと一緒に登ることができ、ギアの使い方や、登攀システムなど多くを学ぶことが出来た。

ＩＣＭでは、３日間の教育プログラムを用意している。このプログラムには、専門の講師がつきマルチピッチクライミング、トラッドクライミング、セルフレスキュー、ビッグウォールクライミングなど、岩登りに必要な技術指導を行ってくれる。日本では、独学の部分が多くあった為、その確認も含めてとても勉強になった。登攀技術に関して世界のスタンダードを知ることが出来たと思う。

教育プログラム以外は、それぞれ参加者同士で相談してクライミングに出かけて行くことが出来る。ＩＣＭのクライミング担当者と登りに行くこともできる。クライミングは、クラッククライミングが主体となる。グレード感は、日本と近い感じがしたが１本の長さが長く１ピッチ40ｍ以上のルートが多い為、長い分難しく感じる。日本の感覚でプロテクションをとると途中で足りなくなってしまうこともある。それだけでもスケールの大きさを感じることが出来た。また、クラックは本当に綺麗なラインが多く、２ピッチを貫くようにできたハンドクラックや、200ｍの凹角に様々なサイズのクラックが混在したラインなど、どのラインも楽しめるものばかりであった。そんなヨセミテの岩を初めて出会った仲間たちと一緒に登ることは良いスパイスとなり、ＩＣＭでのクライミン

グをより楽しませてくれた。始まるまで不安で一杯だったものの、クライミングは、やはり世界共通なのだということを改めて実感することができ、素晴らしい環境で素晴らしい経験を積むことが出来たと感じる。

ただ、最初から、うまくいっていたわけではない。恥ずかしい話、私は英語が全くできない。言葉の壁は大きなものであった。ただ、話せないからといって何もできないわけではなかった。このイベント中は本当に多くのメンバーに助けてもらった。スケジュールが分からなかったり、持ち物が分からなかったり、行き先が分からなかったり、彼らから見たら本当に手のかかる日本人だったと思う。そんな日本人に優しく丁寧に分かるまで何度も教えてくれた。改めて人の優しさを実感できた１週間でもあった。またいつか、ここで出会ったメンバーと一緒にクライミングをしたいと心の底から思う。そして、今回、経験の浅い未熟な私にこのような機会を与えてくれた、日本山岳・ＳＣ協会の方々、ＡＡＣの方々、サポートして下さった皆様に改めて感謝を申し上げたい。

●10月８日（７日にキャンプ場に各自集合）

ＩＣＭが始まると早速英語での自己紹介が行われた。名前以外にＡＡＣが指定した何かを話すのだがそれすら分からず、日本で作った英語のメモをそのままましゃべるしかなかった。自己紹介が終わるとすぐに次の関門が訪れた。スケジュールの説明が聞き取れないのである。しかも、全員で一緒に行動するわけではなく、それぞれに予定を調整して教育プログラムに出たり、クライミングに行ったり、ハイキングに行ったりとバラバラなのである。自分から参加する意思を示さないと、どこにも行けずに取り残されるという危機的状況になってしまった。詳細を聞いて決めたかったが聞き方も分からない為、とりあえずクライミングの格好をしている人に一緒に連れて行ってくれとお願いをした。話しかけたその人はクライミングに行くグループだった。こうしてどこに行くのかも分からないまま車に乗せてもらいクライミン

グへ行くことになった。

到着した場所はPat and Jackというエリアだった。岩場に着くとあっという間に他の人たちはパートナーを見つけて登り始めてしまい、早速取り残されてしまった。内心焦りつつもトポを見ながら平静を装っていたが、困っているのが伝わったようで１本目を登り終えたメンバーが同じルートを登るかと聞いてくれた。５.10ｂのスラブでグレード感もよく分からなかったが、もうここは「ＹＥＳ」しかなかった。そして、その１本をＯＳすると、もっと上のグレードを登りなよと５.10ｄを勧められる。私は日本では５.10ｂか５.10ｃくらいのレベルである。でもここで断ったら、トポを眺めて１日が終わってしまうと思い、ここでも答えは「ＹＥＳ」である。何とかこれも登りきることが出来たが、２本目にして本気トライになってしまった。勧めた人は落ちると思っていたようで、とても褒めてくれた。私も少々興奮気味に、ここが悪かったとか、ここが楽しかったとか、身振り手振りで伝えた。この１本で少し打ち解けることが出来たように感じた。そのあとは、ハンドクラックやチムニーなどいろいろなおすすめルートを登らせてもらった。何もかもが新鮮で楽しかった。いつの間にか言葉の心配を忘れてクライミングを楽しんでいた。

●10月９日

２日目は、教育プログラムに参加した。この日は、クライミングの基礎ということで落下練習からスタートした。普段落ちる練習はしたことが無いので、落ちると分かっていても意外と難しい。トップロープの落下、リードでの落下を体験した。その後は、ナチュラルプロテクションの取り方や、支点の構築、ＡＴＣの様々な使用方法の解説などが行われた。ヨセミテでは、終了点は基本的に固定分散、懸垂は必ずバックアップが基本となっていた。日本のゲレンデでは、流動分散が多く、懸垂もバックアップを取らない人が多いと思う。日本のように

短いルートの懸垂では省略してしまいがちだが、懸垂のバックアップは日本でも必須ではないかと感じた。この日は、教育終了後にSwan Slabのショートルートをいくつか登って終了となった。夜は、毎晩食事がバイキング方式で届けられる。その夕食の中でカラビナアワードが開催される。これは、ＡＡＣがその日に目立っていた人や、良いクライミングをした人に賞としてカラビナを贈るというものだ。この日は２日目のカラビナアワードである。話を聞いていると、「メールでヨセミテへのバスの行き方を聞きまくったのに次のメールではＣａｍｐ４に車で来たというよく分からない人がいる。そして、英語が苦手なのに臆せず乗り込んできた勇気のある若者がいる」という内容だった。それは、私のことだった。英語で苦労していただけにカラビナアワードで名前が挙がってとても嬉しく感じた。

● 10月10日

３日目も教育プログラムに参加した。３日目はセルフレスキューに関する内容である。ＡＴＣを落としてしまった時のカラビナでの下降方法や、ガーダヒッチやＡＴＣを使用したアセンディングを学んだ。また、それらの技術を利用してロープの末端ほどき忘れ等によるスタック時のアセンディング方法も体験した。クライミングをしていけば、いつかロープスタック等を経験する可能性があるので、今後の為にも非常に良い技術勉強となった。この日も会場はＳｗａｎ Ｓｌａｂだった為、終了後は昨日やらなかった手ごろな２Ｐのマルチピッチを登った。ＩＣＭに参加して３日目となり、そろそろシャワーを浴びたいところであったが、イエローキャンプには水場は無く、飲み水用のタンクがあるだけだった。車のある参加者は帰り際にそのままシャワーのある別のキャンプに寄っている様だったが、なかなかシャワーのタイミングがつかめずにいた。結局のところＩＣＭの１週間１度もシャワーを浴びることは無かった。もっと英語が出来れば行けたのかもしれないが、１週間シャワー

を浴びなくても何とかなることが分かった。ただ、さすがに靴下は臭かった。後日談だが、ＩＣＭが終わった後のシャワーは最高に気持ちよかった。また、１週間着た洗濯物を洗うとすごい色の水に変わった。これを着ていたと思うとゾッとする体験であった。

● 10月11日

この日の午前中は、ヨセミテのクライミングレンジャーによるビッグウォールクライミングのデモンストレーションが行われた。普段のクライミングとはまた違ったシステムを使用しており、興味深いものとなった。システムにはデイジーチェーンやフィフィなど多くのギア類を使用していた。ギアが増える分だけ複雑なものになる為、確実な知識のもとで行わなければならないと感じた。また、荷揚げのシステム構築にはダイニーマの芯が入った細めの細引きが使用されていた。大型の滑車を使用した荷揚げシステムでは、小さな女の子でも大人一人を軽々引き上げることが出来ていた。デモンストレーションの後、ギア類を借りて実際に体験することが出来た。セットしたカム類に全体重をかけてテストを行い少しずつ上がっていく。レンジャーが軽々登っていたが、慣れないと一つ一つの作業に手間取り非常に時間が掛かる。ユマーリングも実施したが、システム自体は知っていても普段使っていない為、やはり手間取ってしまった。これらの知識はあれば自己脱出などでも応用が利くので知識として蓄えていきたいと思う。

午前中を終えるとChurch Bowlでクライミングを行った。この日も、パートナー探しに苦戦していたが、カナダから来ていた２人組に混ぜてもらうことができた。私がリードしたルートが彼らにとっては難しめのルートだった為、「ナイスリード！！」と言って褒めてくれた。御礼に、飲み物までおごってもらってクライミングで打ち解けることができて良かったと感じた。言葉は分からなくても共通のものがあるというのは強いと思

う。キャンプに帰ってからは、その二人と一緒にお酒を飲みながら今日のルートのことや日本のクライミングについて語り合った。語り合ったといっても単語を繋げただけの会話だったが、本当に楽しい時間だった。

● 10月12日

ＩＣＭでのクライミングも残すところ２日間となった。この日は、ＡＡＣの教育等もないのでそれぞれ好きなところにクライミングに行くことになっていた。ここ数日は比較的簡単なエリアでのクライミングが続いていた為、もっと難しいマルチピッチを登りたかった。「I want to climb more.」（「もっと登りたい」と伝えたかった。）と言っていたら、昨日登った２人が、別のもう少し登れる人を紹介してくれた。行き先は５．８（６ｐ）のBraille Bookだ。正直なところちょっと簡単そうだなと思ったが、その後、大変な思いをすることになるのをこの時は知らない。Braille Bookは名前の通り本を開いた形のルートで、ハンド、フィンガー、フィスト、チムニーと多彩なクラックが走っている。２ｐ目と４ｐ目をリードさせてもらったのだが４ｐ目のチムニーは本当に苦労させられた。幅が広すぎてプロテクションが取れないランナウトが続いた。しかも、日本の花崗岩と違ってつるつるとした花崗岩に体を張る為、いつか抜け落ちそうな状況である。途中で降りようかとも思ったが、それをうまく説明できる気がしない。腕も足も疲れてきて悩んだ挙句、小さなナッツをクラックにさしてそのまま突っ込んだ。息を荒げながら何とかガバホールドがあるところまで上がったが、ずり上がった時にナッツは取れてしまっていた。あそこで落ちていたらと思うと恐ろしい限りである。これがヨセミテの５．８なのかと思い知らされた。後で聞いた話だが、そこのチムニーは５．８のわりに悪い為、隣にある５.10ａのフェイスを登った方が簡単だったようだ。ワイド登りはもっと経験を積まなければならない。

● 10月13日

この日がＩＣＭメンバーとクライミングをする最終日である。最後は初日に一緒に登った親子と、12日登った２人と一緒にクライミングに出かけた。エリアはFifi Buttressというところだ。このエリアには、５.11ｂのスポートルートと５.10ｄのクラックがある。前日のクライミングでさらに上のグレードに挑戦するように勧められたのである。少々グレードが上がりすぎている気もしたが、最後なので目一杯楽しむことにした。まず５.11ｂのスポートルートは、残念ながらＯＳはできなかったが、ムーブ自体はできないものではなかった。グレード感は、日本の鳳来の岩場に似ているものだった。次のチャンスがあれば、ＲＰしたい課題である。５.10ｄのクラックはフィンガーサイズのクラックをステミングで登って行くものだった。このクラックは、なんとかフラッシュすることができた。最後の１日は全力でクライミングをすることができて全て出し切ったという感じだった。また、いつの間にか片言ながらも英語でコミュニケーションもとれるようになっていた。最初の２日間は、ちょっと帰りたいなとも思っていたが、終わってみると本当にあっという間の素晴らしい時間だった。最後の夕食後は、一緒に登ったメンバーと夜遅くまで語り合った。次回は、もっと英語を勉強して彼らといろんな話をしながらクライミングを楽しみたいと思う。

● 10月14日

朝、テントを撤収して、それぞれ解散した。私は、川の対岸にあるキャンプ４へと向かった。そこにはＩＣＭのメンバーが数名来ていて、残りの数日も一緒に過ごし、日本人の友人も交えて一緒にクライミングをすることになった。

《今回のヨセミテで登ったルート》

10月 4日	Swan Slab　ショート数本
10月 5日	Middle Cathedral Rock Central Pillar of Frenzy 5. 9 (5p)
10月 6日	Five Open Books Commitment 5. 9(3p) Yosemite Fall ショート数本
10月 7日	移動・休養日
10月 8日	Pat and Jack Babble On 5. 10a Boneheads 5. 10b Polymastia 5. 10d その他無名ルート数本
10月 9日	Swan Slab　ショート数本
10月10日	Swan Slab　5. 7程度の無名(2p)
10月11日	Church Bowl Church Bowl Lieback 5. 8 Bishop's Terrace 5. 8(2p)
10月12日	Higher Cathedral RockBraille Book 5. 8(6p)
10月13日	Fifi Buttress5. 10a スポート5. 11b スポート2本 World of universe　5. 10d(1p目)
10月14日	移動・休養日
10月15日	Manure Pile ButtressNutcracker 5. 8(5p)
10月16日	Royal Arches Area Serenity Crack 510d(3p) Sons of Yesterday 5. 10a(5p)
10月17日	移動日

スリランカ最大の聖地アダムス・ピークに登頂し、4つの世界遺産を巡る旅

聖山アダムス・ピーク登頂と スリランカの4つの世界遺産 8日間

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡　旅行代金 298,000円

出発日 2/11(月)・2/25(月)・3/11(月)

※燃油サーチャージ(2018年11月20日現在：目安約17,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施　観光庁長官登録旅行業第490号／日本旅行業協会正会員／ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

本社 〒105-0004 東京都港区新橋3-2-5(第5東洋海事ビル4階) ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033　名古屋☎052-581-3211　福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com　http://www.alpine-tour.com

JMSCA

平成30年度（31年1月）
常務理事会報告

日　時　平成31年1月11日㈮18時～21時
場　所　フォーラムエイト1104号室
出席者　八木原会長、亀山、髙橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、相良、村岡、合田、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中畠、古屋監事、17名中16名出席
欠席者　小日向常務理事

1．フリーディスカッション
①加盟団体の法人化について
ＪＳＰＯの加盟団体規程見直し等を踏まえて加盟団体の法人化について協議した。
②加盟団体の名称変更について
加盟団体の名称に「スポーツクライミング」を入れてもらえるかについて協議した。

2．議　事
⑴平成30年度12月常務理事会・議事録の承認について（事前送付済）
異議なく承認された。
⑵全国理事長会議次第について
一部訂正の上、承認された。
⑶2020年度勲章及び褒章候補者の推薦について
内藤順造監事（山梨）を推薦することで承認.
⑷第13回山岳スキー選手権大会要項について
異議なく承認された。
⑸各種大会代表選手選考基準について
ａ）2019年国際競技大会ユース派遣選手選考基準（世界ユース選手権2019アルコ大会）
ｂ）2019年国際競技大会派遣選手選考基準
ｃ）世界選手権2019八王子大会派遣選手選考基準
ｄ）第４期ＪＭＳＣＡオリンピック強化選手選考について
以上、ｂ）、ｃ）の選考基準は、文言を一部訂正して再提出して貰い、回議にて審議することになった。
⑹第１回スピードジャパンカップ開催要項について（２/10、昭島・モリパークアウトドアヴィレッジ）
文言を一部訂正して承認された。

3．報告事項
⑴平成30年度12月度会計報告について
相良常務理事から資料に基づいて報告があった。
⑵税務調査結果の連絡について
10/29～30に行われた渋谷税務署の税務調査結果について小野寺事務局長より報告があった。
⑶第９回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権結果について
（本誌４頁参照）
⑷キルギス・マウンテインスピリッド2019について
７/26～８/15、レーニン（７,134ｍ）登山の案内
⑸カザフスタン岩登りフェスティバルについて
８/29～９/４にアルマトイで「国際トラッド岩登りフェスティバル」が開催される。
⑹次期役員候補者推薦委員会メンバーについて
前回の理事会で承認された８人のメンバーから国立登山研修所所長の宮﨑豊氏が固辞されたため７名となる。
⑺2019年新春懇談会（顧問・参与会、表彰式）について
顧問・参与会、表彰式、新春懇談会の次第について報告があった。
⑻2019世界選手権・八王子の準備について
以上について担当常務理事から報告があった。

4．指導員・審判員　検定結果報告
ア）スポーツクライミング指導員認定
①千葉県山岳連盟
検　定　日：10/13、14、11/24、25
検定場所：幕張総合高校、印西市松山下総合体育館
新傳大樹、中井晶子、松谷由香里、粕谷良介、福田道子、白石裕也、川口康彦、相澤廣武、関山茂樹、川村高敏、北村誠一、家泉知幸、榑林秀倫、倉石孝平、野村知子、雨笠浩嗣、飯田あづみ、小平幸治、西紘平、濱田達也、関川夕子、秋山剛、島谷渓亮
②神奈川県山岳連盟
検　定　日：９/30、10/１、11/24、25
検定場所：神奈川山岳スポーツセンター
新井牧子、吉田雅子、角田浩、青木 達郎、渋井晴美、大久保毅
イ）スポーツクライミング上級指導員認定
①神奈川県山岳連盟
検　定　日：９/30、10/13、11/24.25
検定場所：神奈川山岳スポーツセンター
太田拓、山下剛宏、小林弘幸、島田邦昭
ウ）山岳指導員認定
①宮城県山岳連盟
検　定　日：10/13、14（無雪期）
検定場所：宮城県第２総合運動場
検　定　日：12/22.23（積雪期）
検定場所：禿岳山系小柴山
遠藤エミ、平山恵美、浦山沢樹、八柳 泰輔、古本陽子、石岡卓彦
②埼玉県山岳連盟
検　定　日：10/20、21（無雪期）
検定場所：飯能・平戸の岩場
検　定　日：12/22、23（積雪期）
検定場所：谷川岳
政健太郎、小林中和、早川啓、朝香聖成、関根弘二、加藤洋子、大河原裕雄、佐伯和彦、下村美和子、八木滋、山﨑郁夫、氏原佐和子、吉松菜保子、水村春代
エ）山岳上級指導員認定
①中央（指導委員会）開催
検　定　日：４/28、29（氷雪）、10/27、28（登攀）
検定場所：富士山（氷雪）、愛知県南山のゲレンデ及び暮らしの杜クライミングジム
菅沼俊吉、福嶋秀和、秋山誠一郎、小林千文、髙取和彦、栗島次郎
上記については、全員異議なく承認。

5．後援報告、協賛等の依頼について
⑴東北の高校生富士登山2019（後援依頼）
異議なく全員承認された。

6．専門委員会動静　11月末～１月始
⑴ＳＣ医科学委員会
11月23日㈯　出席７名欠席２名
ア）競技会医務担当割り当てについて
12月～３月までの競技会担当者を決める。
イ）各業務担当委員報告
①救護担当（中島委員）
ａ）アジア選手権（11月７～11日　倉吉、鳥取）報告
②学術担当（加藤委員）
ａ）学会関連
臨床スポーツ医学会学術集会（大森・加藤委員）
神戸での教育講演（加藤）
ｂ）論文関連
登山医学会誌（大森委員）、臨床スポーツ医学会誌（六角委員）
③強化連携担当（西谷委員）
ａ）One Tap導入関連
ユースでは導入し機能。シニアは検討中。
ｂ）オリンピック強化指定選手合宿とＩＳＳでのメディカルチェック
ｃ）ＢＭＩ問題について
アジアユースで選手１名が、体格が軽すぎるとＩＦのテクニカルデリゲートから指摘を受けた。ＪＭＳＣＡとしてＢＭＩの取り組みが必要。
IFSC MedCom会議では、ＢＭＩのカットオフ値は、男性19、女性18とのこと。
ｄ）選手強化合同ミーティング開催
医科学からレクチャー（六角）
④パラクライミング担当（樋口委員）
2019年日本選手権について
ウ）2020年オリンピック関連
①進捗情報（中島委員）
・スタッフは医師６名、看護師13名、理学療法士８名となる。
・大会前練習７/14～８/１（19日間）
公式練習会８/２～３（２日間）
本大会８/４～７（４日間）
②国際大会救護スタッフについて
（中島委員）
エ）来年度予算関連について
①今年度概要
全体にはほぼ予算内で収まりそう
②来年度予算作成計画
１月半ばに提出予定
オ）その他
①トレーナー関連について
②安全管理について
・ビレイスキルに関するガイドラインが必要と考えている
・安全基準について管轄する担当を作るべきと考える
⑵山岳スキー委員会
11月17日㈯　出席９名委任２名

ア）　2019日本選手権について
　4／6㈯、7㈰　栂池高原
・アジア選手権選考大会とする提案について
・雪崩管理について
イ）来年度事業計画・予算について

⑶強化委員会

　12月23日㈰　出席８名　専門委員３名
１）協　議
①2019年選手選考基準作成について
・2019年国内選考大会参加資格
・第４期オリンピック強化選手選考基準
・世界選手権八王子大会選考基準
・2019年スポーツクライミング日本代表選考基準
・ユース日本代表選手選考基準
　以上の基準等について承認。
②今後のスケジュール
・オリンピック強化選手練習会の実施（2019年１月－３月）
・スピード記録会の実施について（2019年１月－５月）
・ユース強化合宿について（１／３～９、インスブルック）
・第３期オリンピック強化選手合宿（１／６－16、インスブルック）
・セッター・ジャッジ会議（１/19）
・ＨＰＳスタッフミーティング（１/25）
③ＮＴＣへの練習拠点設置について
④危機管理体制の構築について
・OneTap個人情報の共有について
・危機管理フローチャートの意思統一
・2018年の事例事故について
⑤2019年度強化委員会予算（案）について

⑷指導委員会

　１月７日㈪　出席12名　委任４名
ア）新公認指導者制度について
①オフィシャルブックは、ＨＰからダウンロードするようになる。
②専門科目の費用は、現在と同じ。
③スタートコーチの委託事業はない。
④2019年度のスタートコーチの共通科目は、ＮＨＫ学園の共通Ｉと同じ。
⑤2020年度よりスタートコーチの共通科目はテキストをＪＳＰＯで作成するので、そのテキストを使用して日山協で行う。
⑥スタートコーチのリファレンスブックは５月に完成する。
⑦山岳コーチの検定基準を確定
⑧スポーツクライミングコーチの検定基準を確定
⑨2019年度の規程・規約集の改定について
イ）夏山リーダー講習会について
①第２回講師養成講習会の開催について（３/16～17、山スポ）
②ＵＩＡＡとの協議・交渉
③シラバスの変更点あり
④ＵＩＡＡ認定視察日程について
　2019年８/17～18または９/21～23
ウ）氷雪技術研究会（大山）について
エ）2019年度事業計画について
オ）その他
①ココヘリについて
　山岳共済会員向けに会員制捜索へり「ココヘリ」に入会金無料で加入できる。
②ＵＩＡＡよりボルトの腐食等で破損した事例があるかの調査依頼
③指導者養成講習会委託開催の会計処理について
④各種講習会・研修会等の会計処理について

⑸国体委員会

　12月20日㈭　出席15名　委任１名
ア）審議事項
①国民体育大会スポーツクライミング競技規定改正（案）について
②2019年度事業計画及び予算（案）について
イ）報告事項
①第79回滋賀国民スポーツ大会正規視察報告
　滋賀県竜王町：11/29㈭、村岡、西原で正規視察を実施。
②第74回国民体育大会いきいき茨城ゆめ国体リハーサル大会（６/８－９）案内チラシについて
ウ）その他
・佐賀県（78回2023年）より、「国民スポーツ大会」へ名称変更。
・後催地情報
　三重県（76回2021年）リハーサル大会開催（決定）

⑹マーケティング委員会　メールにて
ア）報告事項
①ＢＪＣの放送予定
②高校選抜放送予定
イ）マーケティング関連
①アプルーバル関係（４件）
②2019年シーズンのオフィシャルスポンサーについて
　博報堂ＤＹメディアパートナーズにて一括管理し、11社継続確定。

７．その他の重要事項

　12月14日～１月11日
⑴山梨県山岳連盟創立70周年記念
　12月15日㈯　於：アーバンヴィラ古名屋ホテル　八木原会長、尾形専務理事
⑵「スポーツ・インテグリティの向上に向けて」　12月15日㈯　於：ベルサール神田　小野寺常務理事
⑶選手スタッフ合同ミーティング
　12月16日㈰　於：昭和女子大
　平山副会長、合田・小日向常務理事
⑷印西市長表敬訪問
　12月20日㈬　於：印西市役所
　八木原会長、村岡常務理事
⑸第９回全国高校選抜スポーツクライミング選手権　12月22日㈯～23日㈰
　於：加須市民体育館　八木原会長、尾形専務理事、村岡常務理事
⑹仕事納め　12月27日㈭
⑺仕事始め　１月７日㈪

寄贈図書

雑誌	(株)山と渓谷社	「山と渓谷」Vol.1006
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.860
会報	日本山岳遺産基金	日本山岳遺産基金通信 No.016
	兵庫県山岳連盟	兵庫山岳 第619号
	かごしま国体実行委員会	「カゴスポ」Vol.8
	(公社)日本山岳会	「山」12月号 No.883
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.709
	日本自転車競技連盟	「シクリスムエコー」No.230
	日本万歩クラブ	「帰れ 自然へ」２・３月号
	日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol.68
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.489
	中華民国山岳協會	「中華山岳」《雙月刊》268
	大阪府立体育協会	季刊 府立体育会館 No.127号
	日本武術太極拳連盟	武術太極拳 No.352
	国土緑化推進機構	ぐりーん・もあ 第84号
	La rivista del Club alpino italiano	「Ｍｏｎｔａｇｎｅ 360」gennaio 2019
	NPO法人富士山観測所を活用する会	「芙蓉の新風」Vol.13
	FEEC	「VERTEX」281
	JBC news	第565号
	(公財)日本スポーツ協会	Sport Japan Vol.41
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.528
	新潟県山岳協会	新山協ニュース 第340号
	愛知県山岳連盟	愛知岳連ニュース 第431号
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.96 No.1067
	(公社)日本山岳会	「山」１月号 No.884
	日本山岳写真協会	日本山岳写真協会ニュース１月 第459号
	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol258、259

⑻世界選手権 2019 実行委員会（第 1 回）
1 月 8 日㈫　於：エスフォルタアリーナ八王子　尾形専務理事、村岡・小日向常務理事
⑼国立登山研修所専門調査委員会
1 月 10 日㈭　於：ＪＳＣ会議室
尾形専務理事
⑽第 68 回日本スポーツ賞表彰式
1 月 11 日㈮
於：ウェスティン・ホテル東京
八木原会長
⑾第 53 回ビッグスポーツ賞 2018 表彰式
1 月 11 日㈮　於：ザ・プリンスパークタワー東京　平山副会長

表紙のことば

世界第 3 位の高峰カンチェンジュンガ（8，586 m）は、インドの避暑地で名高いダージリンから北北西約 75㎞に位置するため、ヒマラヤでは最も古くからその存在が知られ、また探られたジャイアント（巨峰）である。

南面からの雄姿はミラミダルな山容だが、表紙写真は、スフィンクス（6，824 m）から観る北面である。1929 年、36 年に P．バウアー達が死闘を尽くした北東支稜、79 年に D．スコット達が無酸素登頂した北壁ルート、そして圧倒的なヤルン・カン北壁などが眺められる。

（写真撮影者・尾形好雄）

編集後記

2 月 2，3 日茨城県鉾田市「いこいの村涸沼」で平成最後の関東地区山岳連盟平成 30 年度総会が行われた。関東各都県から 60 数名が参加。専門委員会毎に活発な意見交換が行われた。私は分科会「広報・総務・事務局」のテーマー「名称変更」「法人化について」「個人会員制度」「事務局業務内容」に参加、先の常務理事会で自由討議した法人化と名称変更については、ここでも活発な意見が出され、法人化はその後の組織運営が大変なようだ。メリット・デメリットよりも、内外において必要性があるからで、2020 年までにいくつかの岳連が法人になるだろう。

（広報担当 水島彰治）

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184
神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
☎042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

NPO法人 北丹沢山岳センター
神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会
事務局　〒252-0184　神奈川県相模原市緑区小渕1545-1
TEL 042-687-4011　FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp
◦ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
◦ 陣馬山トレイルレース実行委員会
◦ 道志村トレイルレース実行委員会
◦ 八重山トレイルレース実行委員会
◦ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
◦ 上野原秋山トレイルレース実行委員会
大会々長　杉本憲昭

登山月報　第 599 号
定　価　110 円（送料別）
予約年間　1,300 円（送料共）
昭和 45 年 12 月 12 日
第三種郵便物認可
（毎月 1 回 15 日発行）
発行日　平成31年 2 月15日
発行者　東京都渋谷区神南 1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会
電　話　03 － 3481 － 2396
F A X　03 － 3481 － 2395

山岳雑誌 岳人（がくじん）
山と人、時代をつなぐ「岳人」

3月号 発売中
【特 集】巡礼の山道
★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中！
毎月15日発売　価格815円(+税)

年間購読がおすすめです。
購読割引　送料無料　限定品プレゼント
年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。
通常本体価格12冊 ~~9,780円~~(+税) → 年間購読なら12冊 8,965円(+税)
1年間で815円 1冊分無料！

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント！
岳人 ミニワレット（2個セット）
サイズ：9×10cm
※カラーはお選びいただけません
さらに はじめてお申し込みの方に
岳人ピンバッジ

年間購読のお申し込み　WEB https://www.gakujin.jp/　全国のモンベルストアでも受付中！
お問い合わせ　モンベルポスト　0120-982-682／TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。
あしたを作る。
三井住友海上

損害保険と聞いて、
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

JMSCA

山岳保険の加入は登山者のマナーです

あなたの山岳保険は大丈夫ですか？

- □ 傷害死亡・後遺障害
- □ 救援者費用
- □ 傷害通院費用
- □ 個人賠償責任
- □ 遭難捜索費用
- □ 傷害入院費用
- □ 傷害手術費用

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00（祝日除く）

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト（www.jma-sangaku.or.jp/mobile/）

WEBからもお申込みいただけます（www.sangakukyousai.com）